

夢

愛知県 岡崎市立岡崎小学校六年 木下 華楓

私は、将来の夢がまだ決まっています。学校で、将来の夢を聞かれた時、周りの友達は、すらすらと書き進めていく中、私の用紙はしばらく白紙のままでした。なかなか筆が進まない私に気づいた友達は、「華楓は頭が良いし、将来何にでもなれそうじゃん。」

と言ってくれましたが、夢がまだ決まっていない私は、何だかとてもはざかしい気持ちでいっぱいでした。サッカーが得意な人は、サッカー選手に、おかし作りが好きな人は、パティシエにと、今の自分の特技やしゆ味が夢につながっている人達のこと、とてももうらやましく感じていました。

この夏、パリオリンピックが開き、様々な競技で日本人選手が活やくしました。ほとんどの選手が、「小さいころから、オリンピックでメダルを取るこ

とが夢でした。」

と語っている姿を見て、夢を持つことのすばらしさを感じると同時に、はっきりとした夢を持っていない自分が益々情けなく感じました。

そんな中、私は『本当の「頭のよさ」ってなんだろう?』という本に出会いました。筆者の「はっきり自分の将来に対する目標が定まっていけないのであれば、さしあたってどういう分野にでも進めるようにしておかないといけない」「何をしたらいいかわからないと迷っているなら、勉強する」という考えが、今の私の心にはとてもひびきました。

私は今、六年生です。来年は中学生になります。勉強もむずかしくなったり、人間関係が上手いか、自分を責めたり、思いなやむことがあるかもしれませんが、その時は、この本を読み返して「積み重ねた努力には無だがない」「学校は、いろいろな人

がいることを知り、人との接し方の練習をするところと思いたい」という言葉を胸に、前向きに考えることができたらいいなと思います。

そして、いざやりたいことが見つかった時に、知識や経験不足であきらめたくはないので、今、学校で学んでいることをしっかりと身に付けておきたいと思えます。「今、やっていることは、これから絶対に役に立つと信じて。」

私は、将来の夢がまだ決まっています。ですが、夢が決まっていないからこそ、これから先、どんな夢でも描くことができると思っています。

私の「今の夢」、それは「本当にやりたい『将来の夢』を見つけること」です。

